

以下の翻訳は情報目的のみで提供されます。本翻訳版と英語の最終更新版との間に差異、不一致、矛盾が存在する場合（翻訳の遅れによる場合を含む）、英語版が優先します。

# Amazon RDS Proxy サービスレベルアグリーメント

最終更新: 2022 年 5 月 4 日

本 Amazon RDS Proxy サービスレベルアグリーメント（「SLA」）は、Amazon RDS Proxy（「RDS Proxy」）の利用に適用される方針であり、AWS アカウントに作成される各 RDS Proxy に個別に適用される。本 SLA の契約条件と、[AWS カスタマーアグリーメント](#)または利用者による本サービスの利用に適用される当社と利用者との間の他の契約（「本件契約」）の契約条件の間に齟齬がある場合は、かかる齟齬の範囲に関してのみ、本 SLA の契約条件が適用される。本 SLA において使用する用語（英文では大文字で始まるもの）のうち、本 SLA で定義されていないものは、本件契約で定められた意味を有するものとする。

## サービスコミットメント

AWS は、RDS Proxy を 99.99% 以上の月間稼働率で利用可能にするため、商業上合理的な努力を払う（「サービスコミットメント」）。RDS Proxy がサービスコミットメントを満たさない場合、利用者は以下のとおりサービスクレジットを受け取ることができる。

## サービスクレジット

サービスクレジットは、以下の表に従って、サービスコミットメントが満たされなかった月次請求期間について、影響を受けた RDS Proxy に対し利用者が支払った料金総額の定率として計算される。

月間稼働率	サービスクレジット率
99.0% 以上、99.99% 未満	10%
95.0% 以上、99.0% 未満	25%
95.0% 未満	100%

サービスクレジットは、RDS Proxy について今後請求される支払いに対してのみ適用できる。当社はその裁量において、利用不可状態が発生した請求期間の支払いの際に利用者が使用したクレジットカードに対して、サービスクレジットを発行することができる。サービスクレジットは、利用者に対し、AWS から返金その他の支払いを受ける権利を与えるものではない。サービスクレジットは、該当する月次請求期間の当該クレジット金額が 1 米ドル（\$1 USD）を超える場合のみ適用され、発行される。サービスクレジットは譲渡できず、また他のアカウントに充当することはできない。本件契約に別段の規定がない限り、RDS Proxy の提供における当社の利用不可状態、パフォーマンスの不実行、その他不履行が生じた場合、利用者の唯一かつ排他的な救済は、本 SLA の契約条件に従いサービスクレジット（該当する場合）を受け取ることである。

## クレジットの請求および支払手続

以下の翻訳は情報目的のみで提供されます。本翻訳版と英語の最終更新版との間に差異、不一致、矛盾が存在する場合（翻訳の遅れによる場合を含む）、英語版が優先します。

サービスクレジットを受け取るには、[AWS サポートセンターでケースを作成する](#)ことにより、請求（リクエスト）を提出する必要がある。対象となるには、インシデント発生後、2 回目の請求期間の末日までに、以下の情報を添えてクレジットのリクエストを当社に提出しなければならない。

- i. 件名に「SLA Credit Request (SLA クレジットリクエスト)」という文言
- ii. 利用者が請求する各利用不可インシデントの日時と影響を受けた RDS Proxy リソース ID の AWS リージョン
- iii. エラーを記録し、利用者が主張する停止を裏付けるリクエストログ（これらのログ内の機密情報または機微性の高い情報は削除するかアスタリスク(\*)で置き換えること）

かかるクレジットリクエストに関する月間稼働率を当社が確認し、サービスコミットメント未満であった場合、当社は、リクエストが行われた月の翌請求期間内に利用者にサービスクレジットを発行する。上記要件を満たすリクエストおよびその他の情報を提供しなかった場合、利用者はサービスクレジットを受け取る権利を失う。

## RDS Proxy SLA 除外事由

サービスコミットメントは、以下の場合、RDS Proxy のいかなる利用不可状態、停止もしくは終了、またはその他のパフォーマンス上の問題にも適用されない。(i) 不可抗力事由または RDS Proxy の責任分界点を超えるインターネットアクセスもしくは関連する問題を含む、当社の合理的支配の及ばない要因に起因する場合、(ii) 利用者の行為または不作為に起因する場合、(iii) AWS サイトで公開されている RDS Proxy ドキュメントに記載されるガイドラインやベストプラクティスに従わなかったことに起因する場合、(iv) 利用者の装置、ソフトウェアもしくはその他のテクノロジーに起因する場合、(v) データベースクラッシュが繰り返される、またはデータベースインスタンスが動作不能になるといった現象を引き起こす、基盤となるデータベースエンジンソフトウェアに起因する場合、(vi) 利用者のデータベースワークロードの入出力キャパシティが不十分であるため、リカバリー時間が長くなることに起因する場合、(vii) 利用者の装置、ソフトウェアもしくはその他のテクノロジーに起因する場合、(viii) マイクロ DB インスタントクラスまたはそれと同様の CPU とメモリリソースの制限があるその他のインスタンスクラスに属するインスタンスに起因する場合、または、(ix) 本件契約に基づく RDS Proxy を利用する利用者の権利の停止または終了に起因する場合。当社の月間稼働率の計算に使用される要因以外の要因が可用性に影響を与えている場合には、当社はその裁量において、かかる要因を考慮してサービスクレジットを発行することができる。本 SLA は RDS Proxy 自体に適用され、RDS Proxy と共に使用されるその他のサービスには適用されない。

## 定義

- 各 RDS Proxy の「月間稼働率」は、月次請求期間中において、RDS Proxy が利用不可状態となっていた時間を 1 分単位で計算し、その割合を 100% から減じて算定する。利用者が月の一部期間のみ RDS Proxy を稼働させていた場合、RDS Proxy は、稼働されていなかった当該月の期間について、100% 利用可能であると想定される。月間稼働率の測定では、RDS Proxy SLA 例外事由に直接または間接的に起因するダウンタイムを除外する。
- 「サービスクレジット」とは、上記の規定に基づき算定されたドル建てのクレジットを指し、付与される場合は対象の AWS アカウントにクレジットが追加される。
- 「利用不可」または「利用不可状態」とは、RDS Proxy への接続リクエストが 1 分間にすべて失敗した状態を意味する。

以下の翻訳は情報目的のみで提供されます。本翻訳版と英語の最終更新版との間に差異、不一致、矛盾が存在する場合（翻訳の遅れによる場合を含む）、英語版が優先します。